

# 敬老・福祉パス改悪ストップ！ 2万4000筆もの署名重く受け止めよ

神戸市議会決算特別委員会が10月11日にひらかれ、日本共産党神戸市議団を代表して大かわら鈴子議員が総括質疑をおこないました。

今年6月に兵庫県バス協会が敬老パス・福祉パスの利用実績にあった負担金の支払いを求めた緊急要望書を出したことを根拠に、神戸市は有識者会議を立ち上げ、パス制度の見直し案を年内に発表しようとしています。有識者会議には利用者代表が選出されておらず、このままでは利用者の声や実態が反映されずに改

悪されるとの不安や批判の声がひろがっています。10月11日には市民から、現行制度の維持拡充を求める2万3920筆もの署名が神戸市に提出されました。

大かわら議員は、この署名や市民の声を重く受け止め、制度の維持・拡充こそすべきと強く求めました。

## 答弁 ダイジェスト

**寺崎副市長：**敬老・福祉パスは対象者の社会参加の促進と移動支援をおこなうために必要な施策であるとは認識している。バス協会からの緊急要望について、市として真摯に受け止め、このまま

では制度の維持は難しいため、有識者会議の意見をふまえて検討をすすめていきたい。

**大かわら議員：**有識者会議には当事者が入っていないではないか。市長は「市民の声を聞くことは大事」だと言ったが、今回提出された署名や

## 大かわら議員が 総括質疑



## 質疑項目

1. 東須磨小学校教員間のいじめ問題について
2. 敬老パス・福祉パス問題について
3. 中学校給食について
4. 都市空間向上計画について

市民の生も声を聞くべきではないか。

**久元市長：**署名の内容は読めば理解できるので、それ以上は意見を聞く必要はない。

**大かわら議員：**障がい者や母子家庭、高齢者の方々が一緒になって集めてこられた署

名2万4000筆の重みを全く感じていない答弁だ。利用者の声をふまえないというのは、本当に冷たい市政だ。高齢者や障がい者を切り捨てるようでは「選ばれる神戸」にはなれない。

## 生徒と保護者に寄りそい 徹底して真相解明を

神戸市立東須磨小学校で、教師間でのいじめ・ハラスメント行為が長期間にわたっておこなわれていたことが明らかになりました。日本共産党神戸市議団は、小学校にかよう児童の保護者や関係者から聞き取りをおこなった結果、神戸市教育委員会と学校の説明会では、「真実を知りたい」という願いに応えず、保護者に

「詳しいことを知りたければ情報公開を」などの対応をしていることが明らかになりました。大かわら議員は「今回の対応は、垂水のいじめ自死事案の教訓を全くふまえていない、教育委員会の思惑を優先したものだ」と指摘。保護者や児童によりそった情報公開と徹底した真相解明を求めました。

は担保されているのか。

**長田教育長：**16日に再度保護者説明会をひらき丁寧に説明させていただく。調査チームの人選については、被害教員の代理人弁護士の意見も聞いた上で、公平性・中立性の観点から市長部局に依頼し、しかるべき委員を推薦していただく。

**大かわら議員：**今回の問題は、これまで神戸市が一貫してすすめてきた学力偏重の競争教育・人権を尊重しない管理主義教育の弊害の根深さを示している。教育委員会の思惑を優先した対策ありきではなく、何よりも保護者と子どもたちに寄りそい徹底して解明すべきだ。

## 中学校給食は、自校調理 方式を正面に見直しを

神戸市の中学校給食は、もともと批判の強かったデリバリー方式でおこなわれていますが、副食が冷たいなどの問題点は解決されていません。教育委員会が先般おこなった

アンケート調査では、生徒も保護者もあたたかい給食へ転換を求めていることが明らかになりました。教育委員会審査で共産党が自校方式の実施  
(2面につづく)

## 答弁 ダイジェスト

**大かわら議員：**情報が伝わっていないことについて不安を抱いている。保護者

の皆さんに寄りそうことが大事。調査委員会が設置されるとのことだが、被害教員の意向をふまえ、中立性・公平性

を求めたことに対し、「生徒、保護者、議会の意見をふまえ、財政負担を念頭に置きながら取り組んでいく」と教育長が答弁。それを受けて大か

わら議員は「生徒、保護者、議会の意見は今の方式を転換することで一致している」と、子どもたちが願う自校調理方式への転換を求めました。

ランチボックスのリニューアルをすすめるとともに、献立内容のさらなる充実について議論をすすめている。財政的な観点からは自治体として当然考慮の上、中学校給食の魅力化について、予算編成の中で議論してまいりたい。

調査でも、ランチボックス改善などでは問題は解決しないことが明らかだ。他党の発言からも「実施方式の見直し」で議会の意見は一致している。市民や子どもたちの願いに寄りそうというなら、自校調理方式を正面に据えて見直しの議論をすべきだ。

**答弁**  
ダイジ  
エースト

**寺崎副市長：**現在の中学校給食の状況について、生

徒や保護者からさまざまな意見があることは承知している。教育委員会では、現在ラ

**大かわら議員：**アンケート

## 都市空間向上計画は見直しにとどまらず撤回を

鉄道駅からの距離だけで区域を線引きし、郊外・ニュータウンを切り捨てる「都市空間向上計画（素案）」に対し、神戸市の市民意見募集では400通もの意見が出され大半が反対意見となりました。この意見を反映して、今議会で

は与党である自民党の議員からも「地域の線引きをすべきではない」と反対の声が上がりました。大かわら議員は、この状況を市長はしっかり受け止め、見直しにとどまらず計画の撤回を決断すべきと求めました。

**答弁**  
ダイジ  
エースト

**油井副市長：**今回の計画（素案）で区域設定について、さまざまなご意見をいただいた。主要なバス路線の考慮や境界を明確にするという観点から見直しを検討し、（10月末に計画（案）を策定、11月中に再度市民意見募集と各区の説明会を実施し）今年度中の策定に向けて取り組みたい。計画の目的は変えるつ

もりはない。  
**大かわら議員：**計画目的を変えること無くすすめる以上、地域を線引きすることにより変わらない。この線引きが「財産権」を冒すだけでなく、将来にわたる人生設計までかえてしまうとの市民の不安の声、議会からも反対の声が上がったことを受け止め、計画の撤回を求める。

10月1日

### 中小企業への支援の 拡充を 経済観光局審査で山本議員



質問する山本じゅんじ議員

市内事業所の99%を占める中小企業に対する支援は、ベンチャー企業や成長産業などの支援に力点がおかれ、既存の中小業者

水道法が改正され、自治体保有の水道施設の運営権を民間に売却するコンセッション方式の導入が可能になりました。しかし市民の生活に直結する水道事業は公共性が高く、直営を堅持すべきです。大かわら議員は中期経営計画でその姿勢を明確にすることを求めました。また来年4月からの下水道料金値上げと消費税増税で15億6000万円の市民負担になります。市民生活が大変な今、水道料金の値上げは絶対に行うべきではないと強く当局に求めました。また、あわせて子育て世帯や高齢者への水道料金の減免制度を創設することを求めました。

## 決算特別委員会審査から

1. 消費税について
2. 中小企業の支援について
3. 須磨水族園について

質疑項目

への支援は融資が中心で、活性化対策としては不十分です。山本議員は「中小企業の経営の安定化をはかり力を高めることは、神戸経済の底上げにもつながる。中小企業対策の予算は他都市と比べても多いとはいえ、予算を抜本的にふやし、直接支援も含め既存業者への支援を拡充すべき」と求めました。

**答弁**

**山本議員：**現在融資制度は400万円が限度となっているが、500万円になれば活用の幅が広がるという声をよく聞く。500万円

に引き上げ、利率を下げ借りやすいようにできないか。また、保証料の全額補助を復活させれば利用を促し活用しやすくなる。

**平野経済観光副局長：**リーマンショックの時に特別措置として500万円の限度額にした。景気環境をみながら26年度にもとに戻した。金利は政令市の中では最も低い水準の金利だ。限られた財源をバランスよく中小企業のために使うため、販路拡大や人材確保などに集中させている。

**山本議員：**政令市で一番低いと言われたが、横浜市では神戸市より低い金利が設定されている。人材確保や販路拡大は当然だが、資金繰りで苦勞されている方もいるので、予算に反映していただきたい。

質疑項目

1. 水道法改正にともなう水道民営化について
2. 使用水量に見合った料金体系への見直しについて
3. 使用料滞納等による給水停止について

**答弁**

**児玉水道副局長：**中期経営計画は現在作業中。今の段階で明言はできない。

**広瀬水道局長：**人口減少にともなう給水収益の減少、施設の経年化にともなう更新投資の増大など経営状況が厳しくなっている中、可能な限りの経営改善をやって、将来にわたって安定給水に努めていきたい。

10月1日

### 市民生活に直結する水道料金の 値上げは絶対に行うな！ 水道局審査で大かわら議員



質問する大かわら鈴子議員